

研究課題：がん患者や家族が必要とする社会的サポートやグループカウンセリングの有用性に関する研究

課題番号：H19-がん臨床- 一般-008

主任研究者：東海大学医学部基盤診療学系 教授  
保坂 隆

## 1. 本年度の研究成果

本研究では、がん患者や家族への「心のケアの均てん化」を可能にしていく実態調査と具体的な方法論の確立を目指している。

具体的にはまず、全国のがん診療拠点病院の病院長と看護部長へのアンケート調査を開始した。現状としての、がん患者および家族への心のケアの実態を明らかにするためである。20年1月締切のため報告書中には結果を示すことが出来る。

次に、がん患者へのグループ療法ができるファシリテーター養成講座を始めた。これは2時間半×3セッションであり、座学とグループワークから構成されている。週1回で3週間続けるものと、土日の1.5日バージョンを考え施行しているが、時間的・人的な効率から考えると後者のほうが効率的であった。これまで東京で2回、大阪1回、名古屋1回、広島1回、鹿児島1回を終え、20年2月には札幌での開催が予定されている。受講者は全部で300人程度であり、看護師・ソーシャルワーカー・心理士・医師らが多く、それ以外には薬剤師・栄養士・患者らが参加している。そして倫理委員会の承認を得た施設では、実際に乳癌患者のグループ療法を開始している。さらに、同じグループ療法を、肺がん患者の配偶者を対象にして行う準備を始めた。

次に、「乳癌術後患者を対象としたQOLと医療経済に関する調査研究」を乳癌術後患者100人を対象として開始した。QOLと心理調査を、前・5週目・6ヶ月目の3回行っている。さらに、平成20年1月からは、5週間のグループ療法参加者50人を対象にして、上記調査と全く同じスケジュールで開始する予定である。

最後に、同じグループ療法の手法を用いて、グループによる遺族ケアを計画している。その準備研究として緩和ケア病棟を死亡退院されたご遺族の健康状態に関する研究を開始した。まだ発表できるデータはない。

## 2. 研究成果の意義及び今後の可能性

本研究はがん患者や家族が、日本のどこに住んでいても、適切な心理社会的サポートが受けられるようなシステム、つまり「心のケアの均てん化」を構築するものである。

実際の方法は、まず術後乳癌患者のQOLに影響を与える背景因子（年齢、配偶者の有無、経済、主治医との関係性、病期や転移の有無、痛みや抑うつ程度、その他）を明らかにして、その結果により、介入の種類や形態、適切な介入者の種類、などをレコメンドしていくガイドラインを作成する。介入の種類とは、情緒状態へのカウンセリング的な介入・知識や情報を共有する教育的介入・資源の活用法を教える問題解決的な介入、などであり、形態とは個人療法・夫婦や家族療法・患者同士のグループ療法、などであり、適切な介入者の種類とは、主たる問題によって精神科医・臨床心理士・ソーシャルワーカー・看護師など、最も効果的な介入ができる職種のことである。介入者として忘れてはならな

いのが、がん患者自身である。申請者のこれまでの研究によっても、「同じ病気を持った者同士の理解や支え合い」は強力なサポートになることがわかっている。

本研究では、グループ療法が出来るファシリテーターを養成している。これまでの参加者から言えば、医師以外のコメディカルスタッフ（看護師・ソーシャルワーカー・心理士・医師らが多く、それ以外には薬剤師・栄養士ら）が参加し、さらに患者や家族までも受講している。この手法は、がん患者のグループ療法だけでなく、がん患者の家族のためのグループ療法や、グループによる遺族ケアにまで応用・発展が可能である。

この講習会を外部レビューアーからも評価を得て完成させ、たとえば「認定がん患者ファシリテーター（仮称）」のような人材を育成したい。彼らの存在によって、がん拠点病院や、患者会までもが、がん患者にとって病気についての学習・情報収集の場となる可能性が大いに期待できる。これらはすべて、がん対策基本法や行政が目指すものと一致している。

### 3. 倫理面への配慮

グループ療法を始めた施設ではすでに倫理委員会の認可を受け、全国のがん拠点病院へのアンケート調査も分担研究者らの倫理委員会の認可を受け開始している。肺がん患者の家族のためのグループ療法については、現在、倫理委員会に提出し検討されている。

患者個々のデータ管理は施設の研究者だけが管理して、研究室から外に持ち出さないように細心の注意を払っている。今後の発表に関しても、集団としての評価を中心に言い、いかなる手段によっても個人の同定が出来ないように留意する。

### 4. 発表原稿

- 1) 保坂 隆：グループ療法ファシリテーター養成講座の可能性。緩和医療学 10（印刷中）2008
- 2) 保坂 隆：医療とメディアのいまーある新聞記事の評価から。医学のあゆみ 222: 903-906, 2007
- 3) 保坂 隆：サイコオンコロジーの概念と我が国の現状。日本臨床 65: 109-114, 2007
- 4) Kishi Y, Kato M, Okuyama T, Hosaka T, Mikami K, Meller W, Thurber S, Kathol R.: Delirium: patient characteristics that predict a missed diagnosis at psychiatric consultation. Gen Hosp Psychiatry. 2007 Sep-Oct; 29(5): 442-5.
- 5) 保坂 隆：がん患者への告知と精神症状とは？医事新報Junior 461: 31-34, 2007
- 6) 保坂 隆：告知を受けた患者の家族にはどのように対応すればよいか？医事新報Junior 462: 31-34, 2007
- 7) 河瀬雅紀：緩和医療における精神症状と対策。緩和医療学 10（印刷中）2008
- 8) 松島英介：緩和医療におけるスピリチュアリティと尊厳。緩和医療学 10（印刷中）2008
- 9) 下妻晃二郎：緩和医療におけるQOLの評価と対応。緩和医療学 10（印刷中）2008
- 10) 堀 泰祐：緩和医療における集団精神療法。緩和医療学 10（印刷中）2008
- 11) 保坂 隆：がん治療ーグループ療法に保険適応を。朝日新聞「私の視点」2007/8/23

## 5. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業学校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属機関及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属機関における職名
保坂 隆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者会会員を対象にしたファシリテーター講習会の実施</li> <li>・多職種によるファシリテーター養成講習会の実施</li> <li>・総括</li> </ul>	慶應義塾大学医学部 ・1977年卒業・医学博士・精神医学	東海大学医学部 基盤診療学系・精神医学	教授
松島英介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行がん患者と家族のQOL評価</li> <li>・進行がん患者への介入の実施</li> </ul>	東京医科歯科大学 1980年卒。医学博士・医学博士・精神医学	東京医科歯科大学 大学院心療・緩和医療学分野・精神医学	准教授
河瀬雅紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者会会員を対象にしたファシリテーター講習会の実施</li> <li>・乳癌患者へのグループ療法の実施</li> </ul>	高知医科大学 1984年卒・医学博士・精神医学	京都ノートルダム女子大学 心理学部心理学科・精神医学	教授
下妻 晃二郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者会会員を対象にしたファシリテーター講習会内容の検討</li> <li>・全研究におけるQOL評価方法の確立</li> <li>・全研究の効果についての解析</li> </ul>	大阪大学大学院医学研究科 博士課程・1985年卒・医学博士・外科学	立命館大学 工学部化学生物工学科・医療管理学, 臨床疫学, 臨床腫瘍学	教授
堀 泰祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳癌患者へのグループ療法の実施</li> <li>・多職種によるファシリテーター養成講習会の実施</li> <li>・夫婦療法の実施</li> </ul>	京都大学医学部 1975年卒・医学博士・緩和医療学	滋賀県立成人病センター 緩和ケア科・乳腺外科, 緩和医療学, サイコオンコロジー	主任部長
森山美知子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーター養成講習会の内容の作成。特に家族を対象としたプログラムの作成と夫婦療法・家族療法の実施</li> </ul>	カリフォルニア州立大学フレズノ校 看護学部大学院修士課程 ・1992年卒・看護学修士, 山口大学医学部 ・1999年修了・博士(医学)・成人看護学	広島大学大学院 保健学研究科保健学専攻看護開発科学講座 ・家族看護学 ・成人看護学(慢性疾患ケア/がん看護の家族ケア)	教授

